

\*\*\*\*\*

第3回 第五期町田市福祉のまちづくり推進協議会バリアフリー部会 会議録

\*\*\*\*\*

開催日時：2009年6月16日（火）午前10時～午前11時45分

開催場所：すみれ会館 3階 第1会議室

\*\*\*\*\*

出席会員：（敬称略・順不同）

秋山哲男、風間博明、赤堀義信、桑原正弘、安野イヨ子、関根善一、小枝公一郎、田島隆子、吉田樹、高橋哲哉、小野恭一（代理：大友）、野崎誠貴、林正己（代理：田口）、山本一俊、杉森俊彦、坂本織也、三木健明、清水隆治（代理：堀籠）、玉野利章、皿嶋裕規、木美貢、垣見龍次、千田文代、数野博久、柴田英司、高橋豊

事務局：高橋豊都市づくり部長、楠裕次都市計画課長、渋谷晴久都市計画交通計画担当課長、水野巖係長、奥村繁樹主任、保坂陽子主事

傍聴人：1名

\*\*\*\*\*

【会議次第】

1. 開会
2. 会員紹介
3. 議題
4. その他

\*\*\*\*\*

【議題】

1. 策定の進め方について
2. アンケート調査について

\*\*\*\*\*

【資料】

- ◎町田市バリアフリー部会 会員名簿
- ◎席次表
- ◎資料1 検討組織図
- ◎資料1-1 基本構想策定の流れ
- ◎資料1-2 バリアフリー基本構想策定業務スケジュール（案）
- ◎資料2-1 アンケート調査実施要領（案）
- ◎資料2-2 アンケート調査票（案）一式

\*\*\*\*\*

【参考資料】

- バリアフリー基本構想でまちはこうなる！（パンフレット）

\*\*\*\*\*

## 【議 事】

<開会> 省略

<委嘱式> 省略

<傍聴者紹介> 省略

<資料確認> 省略

<会員の紹介> 省略

### <部会長の選出>

- ・第1回、第2回 第四期町田市福祉のまちづくり推進協議会バリアフリー部会に引き続き、秋山会員を選出。
- ・職務代理として吉田会員を選出。

### <部会長・職務代理挨拶>

(部会長)バリアフリー法が2000年に施行されて以降、2009年ちょうど9年目になりますが、活動をやってはいたのですが、今回本格的にスタートするということになりました。そもそも交通バリアフリー法とは駅周辺中心の計画ということ、旅客施設と道路、つまり鉄道駅と道路が対象であった。あとは、唯一、音響装置が対象であったが、この2006年から公園が入ったり、駐車場が入ったりして複雑になってきている。そういう段階でのバリアフリーの基本構想になると思います。その点、どういう形で作っていくかは今までの様々な経験から新しい構想を町田市で展開してもよろしいのかと思います。遅れてスタートですから、遅れたなりの新しい取り組みを是非できたという形で考えていきたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。

(職務代理)新法に変わってから、いわゆる駅、その周辺という所を基本としながらもそこからさらにどういう形で範囲を考えていくかということがもう一方で問題になってくる。町田市の場合には、おそらく鉄道だけじゃなくてバス交通が重要になってくる。バスから鉄道に乗り換え、あるいはバスを利用して市街地に移動する。例えば、大型の山崎団地などの様なところもある。そういったバスと地域のつながり、バスと鉄道のつながりなどがある。私はいろいろバス計画について専門的に携わっているという所もありますので、またそういった観点からも見ていきたいと思っております。

### <確認事項>

会議録音、写真撮影、議事録とりまとめ、会議の公開について了承を得た。本日の傍聴者は1名。

## <議題>

### 1. 策定の進め方について

資料1、資料1-1、参考資料に基づき事務局より説明。(省略)

- ・質問なし

### 2. アンケート調査について

資料2-1、資料2-2に基づき、事務局より説明。(省略)

- (A 会員) 障害者団体にアンケートを依頼されるということですが、団体はどのように協力したら良いのか。

(事務局) 各協会の人数割合で 300 票を配分して、こちらでその中でお住まいの区分をして依頼する。準備(封筒詰め)したものを団体にお渡しするので、それを手渡しで配布して頂く。渡された方は、回答後、同封された返信封筒をポストに投函して頂くということによろしいでしょうか。

(A 会員) 手渡しは難しい。

(部会長) 方法については、事務局と障害者団体で相談して、適切な配布方法を決めて頂くということによろしいでしょうか。

(B 会員) アンケート調査の対象者は、身体障がい者を指しているのか、精神障がい者や知的障がい者も入っているのか。

(事務局) 精神障がいの方も考えています。

(B 会員) 障がい者でも割合は均等なのか。アンケートの最後の質問では、身体障がい者を対象とし、精神や知的は入っていないように思われる。

(部会長) 精神障がい者の方や知的障がい者の方も外出するときに様々な問題が生じるが、その項目がやや足りないように思うので、その項目を配慮して追加するということによろしいでしょうか。

(C 会員) 一つ目は、回答をいろんな人から集めたいということなら、重い知的障がい者のヘルパーをしている人から話を聞くと交通手段の問題とか道路整備の問題とかの相談を受けるので、ヘルパーステーションなどもターゲットに入れた方がいいのではないかと。二つ目は、アンケートの「バリアフリーに関することで、ご意見がありましたらご記入下さい。」の項目は、具体的な例をあげて欲しい。

(部会長) 二つ目の具体例などについては、“道路で”など事務局の方で限定して頂く。一つ目のヘルパーステーションの方に意見を聞くということですが、交通バリアフリー法でのアンケートは大きく分けて2種類考えられる。一つは計画を作るときにアンケートで意見収集を行う、二つ目は実際の道路や駅の問題点を上げて実際にデザインするときに行う。今回のアンケートは「計画を作るまでの参考資料として仮の計画を立てて、その仮計画を事業化する際に、ある道路について問題点をアンケートにおいてあたりをつけたい」というのが目的で、実際の本計画をたてる際には、地域に住む障がい者や市民の方の意見を取り入れて、どこが問題かを明確にしていく。つまり市民参加の方法で、計画参加とデザイン参加があり、デザイン参加の方が重要と思われる。今の段階では、「具体的にデザイン参加までを考えます」とは言っていませんので、前段の情報収集とお考え頂きたい。そういう意味では、「道路とか公園だとか建築物の問題点をお書き下さい」ところは具体的に書いた方が良くと思うので、そういう形で対応させていただきます。

(C 会員) 「入店を断られる」とか実際に書いてくる人がいると思いますが。

(部会長) 入店を断られるということについては、今度の東京都の福祉施策(小さな店舗は入れないでいる知的障がい者に対して、店に入るときに、声をかけようかどうかというときのプログラム)が10月1日に発表されますが、町田市の方でも

それを使っていくという方向でいくのがいいと思いますが、町田市の方がその点は先行しているので、商店街に対してそのプログラムを使っていくのがいいのではないかと思います。

(D 会 員) 一つ目は、山崎地区だけならアンケートの間4の町田市全部の駅は必要ないのではないか。二つ目は、アンケートの間10の「音響装置がない」という項目は障がい者を対象にしていると思うが、市の方には、自動で発信する感応装置が何台ぐらい市内にあるのか確認して欲しい。

(事 務 局) アンケートは町田市内の駅9カ所と山崎団地付近に配布する予定です。市内の各駅に行かれる方に対応するように市内全ての駅が入っております。

(部 会 長) 二つ目の質問は、間10の9の項目が不十分であるので、“ついてない”だけではなく“つかいづらい”を追加する必要があるのかもしれないので、この項目はもう一度考える。音響信号については二つのやり方（自動発進、押しボタン）がありますが、そのことについてはこれから議論をするので、町田市で何処にどのような音響信号がついているのか確認をしておいて頂きたいと思います。

(E 会 員) 一つ目は、アンケートのやり方で、1つ回答と2つ回答があるが、2つ回答させる意味は何か。二つ目は、アンケート内容の中にバスやタクシーなど交通移動手段についての内容がないのはどういう理由なのか。

(事 務 局) 外出状況について2つ伺っているのは、外出の目的が幾つもある中から2つの主な目的を聞くことで何がどのかを把握するためです。バスやタクシーなどの内容がないのは、バリアフリー基本構想の中で重点整備地区に指定するときに概ね400haという地域の制限があり、その中が主に徒歩圏なので、ここでも徒歩圏でということを重視して聞いています。

(部 会 長) モビリティについては鉄道の乗り換えまでに焦点を絞っているためです。外出目的を2つや交通手段を2つだと集計をするときにクロス集計がしにくく、1つだとクロス集計が出来るが、特定の目的に絞られてしまう心配がある。但し、市民の方に大量にアンケートする場合には、1つであってもかなり分散的に抽出できるので、1つでもいいという考え方もあるので、事務局で、どういう目的のあたりを抽出するかを考えてほしいと思います。

(F 会 員) 間6-2と間7-2で「利用する際に問題に感じている箇所はありますか」とありますが、例えば施設内にエレベータはあるけど使いづらいということなのか、エレベータがないことが問題なのか、設問の表現がわかりづらく回答がしづらい。例えば町田駅にエレベータがない場合にエレベータがないことが問題だと指摘できない。

(部 会 長) 事務局は修正案を考えて下さい。

(G 会 員) 地域限定のアンケートを行って、その後、全市民に対してパブリックコメントを取るとのことですが、そうすると全市民にアプローチが行われ、対象になって

ない地域の市民からは「流れが分からない、経緯が十分に理解できない」といった事になるので、アンケートも全市民を対象に行う方が、公平性が強まるのではないかと思います。

(事務局) バリアフリー構想をもとに、今回のアンケートの目的は「徒歩圏 400ha が重点整備地区ということで設定する」という考え方から、駅を中心に半径 1km 以内の地域にお住まいの方に意見を聞くのが有効と考え地域を限定しました。しかしながら、今後、2010 年度、基本構想策定に伴い、市民の方の協力を得てパブリックコメントを頂く場面もあるので、今後、部会の中でご意見を伺っていきたいと思っております。

(部会長) 今回は、バリアフリー法の中のひとつにアンケートをするという項目があるということも含めて、町田駅前にはアンケートもして歩くということになっている。それ以外の所は事前に問題だと感じているところを拾っておき、それは住んでいる人が一番よくわかっているということで限定して聞いていく。その後、実際に計画を立てて素案を作った段階で、デザイン的に問題があるところを確認して歩いたり、地域の人にもう一度聞くという機会を考えているので、「多くの人の意見はそこで吸収できるという可能性を残している」という位置づけなのでご理解を頂ければと思います。

(事務局) 資料 1-1 の第 1 回地区協議会の後に 2-2 現地点検の準備で、調査員の依頼・公募というところで、市民の参加者を募集するというところで市民の方に参加して頂くということも考えておりますので、ご理解頂きたいと思えます。

(職務代理) アンケートでは全ての意見を取れるわけではないので、どういう位置づけで行うのか明確にする必要がある。例えば、地図指摘法でやった場合、視覚障がいの方は自分ではできないし、一方で知的障がい、発達障がい、精神障がいの方の場合には、道路自体に問題を感じるのではなく道路を走っているバス自体に問題を感じていることもある。そのため、アンケートで取れる部分と取れない範囲の部分の仕分けをしてアンケートで取れないような部分を現地点検や、ヘルパーステーションを含めてのヒヤリングのようなことを実施するなどの方向が決まれば、今日の議論は見えやすくなると思えます。二点目は、アンケートの問 5 で駅周辺の人に配られるのが多いと考えると、実際に町田駅にどのくらいの頻度で来て、町田駅までどんな交通手段を使って来るのかを聞いた方が意味がある。三点目は、アンケートの利用頻度を聞いているところで、「年に数回程度」で終わっているが、「全く行かない」という場合、アンケートに回答しなかったのか、全く行かないから答えてないのか判断がこのままだと出来ないと思えます。

(部会長) 一つ目の「アンケートの位置づけを明確にして下さい」という提案については、事務局は明確にする。二つ目は、よろしいでしょう。三つ目は、「そもそも行かない」という人のためにアンケート項目を修正する。位置づけについては、このアンケートはあくまでも地図指摘法を中心として道路の問題箇所をクリアにするために抽出すると考えて頂いて、それで足りない部分をどこで補足するかということ、ひとつは知的障がいや発達障がいといった直接判断できない方、あるいは高

年齢の方々がどういう問題を地域で感じているかをどうやって吸収するかを事務局で考えて頂く。ヘルプステーションなどで、当事者以外の意見がある方々からの収集の仕方も考えてみる等、追々、計画を立てる上でどうやって意見収集をしていくかを事務局で考えて資料 2-1 の中に入れるのがいいのではないかと。アンケートの狙いや他の調査での関係をこの中で書くか外で書くかわからないが、少し整理をしておいてほしいと思います。

(C 会員) 問 6-2 と問 7-2「問題」という言い方をすると範囲が広がってしまうので「不便」という言葉を入れるのを提案したいと思います。

(部会長) アンケートの設計の練り直しが必要で、現在存在する施設に行ったときに、不便や問題を感じるといった部分と、無い物に対する問題、行かないという問題と 3 つがあると思いますので、問 6 から問 7 にかけて再整理をして頂くということでしょうか。

(H 会員) 道路について問題があるところに丸をつけることはできるのですが、それ以外の交通バリアについてお話させて頂きます。例えば、難聴者の場合、一方的に話をする事は出来るがバスに乗ったときや道を聞いた時に返ってくる声が全然聞こえません。タクシーなどは運転手から話しかけられたりするのが怖かったりする。そういうときには、書いたりするのが一番なのですが、乗り物が走っている時に書いたりすることができないので不便である。

(部会長) 交通バリアフリー法の中で、コミュニケーションボードというものが提案されています。あるいはバリアフリー法以外でも様々なところでコミュニケーションボードを使って、聴覚障がいの方が、コミュニケーションを取れるように提案はされているので、事務局もそのあたりを障がい別にどういう対応をするかを視野に入れて考えて下さい。

(I 会員) アンケートの地図はエリア毎に別々の地図を同封されるのですか。町田駅周辺の地図を他地域のアンケートに同封されてもいいのではないのでしょうか。他地域の地図は、施設が入っていないのですが、入れて頂ければ回答しやすいのではないかと思います。

(部会長) 全部に入れる必要はないと思いますが、町田市民が多く利用しているので、町田駅の地図を他地域のアンケートに入れるということは考えさせて下さい。

(事務局) 本日は会議資料ということで、町田駅周辺だけ実際に配布するサイズでお配りしました。他地域についてもこれと同様に福祉総務課発行の「おでかけマップ」に記載してある施設は載せて、各地区 A2 の大きさで配布する予定です。

(部会長) ボールペンの赤で書いてみると見えないので少し薄めで印刷するのがいいと思います。

(D 会員) アンケートの調査の方法ですが、活字だけで、他の手段は考えてはいないのでしょうか。点字とか視覚障がい者や高齢者の場合、普通の活字で書かれても字が読

めない人も結構いると思いますが、いかがでしょうか。

(事務局) 活字が読めない方の対応も個別で考えております。各障がい者団体に配布する時に、団体の方とご相談する予定になっております。

(部会長) 地図指摘法などは障がい者の方、地図が読めない人、高齢者には難しいので、口頭での情報収集など方法について考えるべきだと思います。

(部会長) 意見が出つくした様です。今回出た意見は、B会員からは、出来るだけ市民の意見を反映すべきではないかということももっと広くいう意見がありました。これについては出来るだけ努力はしますが、様々な観点で直接聞ける機会などを設けていますという説明がありました。C会員の方からアンケートの位置づけもありますが、ヘルパーステーションなどをターゲットにして意見の収集をするということもあり得るだろうという提案を頂きました。これもなんらかの形で対応できる可能性を持っていると思います。また、C会員の意見として、アンケートの4ページのバリアフリーに関する意見をもっと具体的にしたらどうかというご提案がありました。これも具体的にしていきたいと思います。D会員からは団体への配布の方法や音響装置の問題点についてはどう扱うかということですが、これについては独自に音響装置を調べなければいけないということで事務局の方でやって頂きたいと思います。E会員からはアンケートのやり方についてご意見を頂いて、バスとタクシーについてはどうなのかと2つの回答についてはどういう意味かを伺いました。F会員からは問題を感じている箇所、つまり問6や問7で施設がないものについては回答出来ないのではないかと指摘を頂きました。これにつきましても問6と問7での全体の設計の見直しで対応したいと思います。G会員からは、対象者の地域を特定していることや対象になっている市民の流れがよくわからないので、再度説明を事務局からして頂きました。職務代理からはアンケートだけでは全て対応できないので、アンケートの機能する役割とか全体の位置づけをもっと明確にした方がいいのではないかという意見を頂きました。最もだと思います。あと、問5などいくつかご指摘を頂きました。C会員からは、問6と問7の設問で「問題点」だけではなく「不便」も入れたらどうかという提案を頂きました。D会員からは調査方法で視覚障害者や高齢者になんらかの対応する方法を考えて下さいとのことでした。以上のさまざまなお意見を踏まえて事務局と私共の方で相談させていただいて、バージョンを上げさせて頂きたいと思います。そういった形でアンケートについては整理させていただきたいと思います。

#### <その他>

次回、町田地区協議会については、日程調整を行う予定。

#### <閉会>